

# 「チョキチョキボラ」

「チョキチョキボラ」は、寄付で集まった切手やベルマークなどを切り取り・仕分けをされているボランティアグループです。

今回は、「チョキチョキボラ」の皆さんに、日頃の活動や思いについてお話を聞かせていただきました。



## ——活動を始めたきっかけは何ですか？

チヨキチヨキボラのメンバーはレイカディア大学第44期生で、健康づくり学科の4名と園芸学科の2名で交流しながら活動をしています。

始めたきっかけは在学中に受けた「ちょいボラ（ちょっとしたボランティア）」の講座でした。当時、市社協が行っていたボランティア体験学習で、集まった切手などの仕分けがあることを知り、「それならおしゃべりしながら私たちにもできるかもしれない」と思い、試しに始めました。

大学卒業後も「せっかく仲良くなった仲間とつながってほしい」「気軽にできる社会参加がしたい」という思いがあり、自然と集まるようになりました。

## ——現在の活動スケジュールはどのようになっていますか？

令和5年から本格的に活動をスタートし、現在月1回、午前9時半から12時頃まで福祉センター別館のボランティア活動室で作業をしています。11時半頃には片付けを始め、無理なく続けられるペースです。

——活動内容は主にどんなことですか？また、活動の魅力をお教えてください。

寄付で集まった切手とベルマークを切り取り・仕分けする作業です。

切手は種類がとても多く、素敵なデザインがあると話が弾みます。歴史、季節の風物詩、外国の記念切手、関西万博のキャラクターなど、見ているだけでも楽しいと思います。



ベルマークはメーカーごとの仕分けが大変ですが、「こんな商品にもついているんだ」という驚きがありますし、「寄付してくださった方の生活が見えるね」と話が弾みます。

「どうせ買うならベルマーク付きのものを選ぼう」と思うようになり、活動を通して日常の意識も変わりました。



ひとりではなかなか続かないけれど、みんなで集まると楽しくできるし、おばちゃんの井戸端会議みたいにわいわい言いながらやっています。レイカディア大学の他学科の仲間の活動や地域の情報交換をしたり、交流の場にもなっています。



## ——どういった思いで活動されていますか？

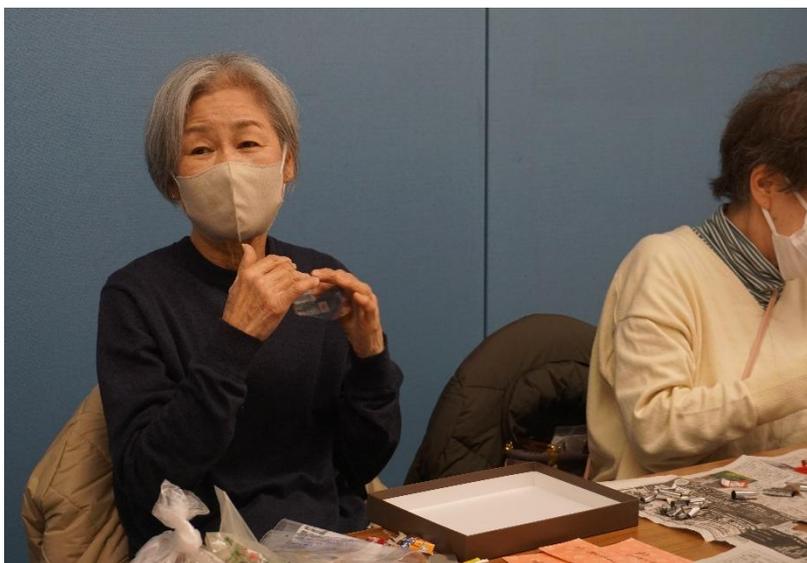
古切手の消印も活用されていることや整理した古切手は観光客向けの商品になり、その収益が知的障がいのある方の支援に役立てられていることを知り、やりがいやモチベーションにつながっています。少しでも社会の役に立てたら嬉しいです。



月1回でも外に出るきっかけになるし、気軽に参加できて、気の合う仲間と続けられるのがいいです。活動場所を調整してくださる市社協に感謝しています。

## ——大変なこと・苦勞することはありますか？

特に苦勞などはありません。最初は日程調整に悩む時期もありましたが、「来られない日は休んでいい」「参加する時間も自由でOK」というスタイルに変えてからは気楽に続けられるようになりました。ノルマもなく、無理なく取り組めることが長続きの理由のひとつです。



## ——メンバー募集はしていますか？

現在、新規募集はしていません。まずはつながった彦根の仲間が続けていきたいと思っています。

——最後に、ボランティアに興味のある方へメッセージをお願いします。

肩肘張らずに“できる範囲で始めること”です。自分の健康が第一。元気だからこそ活動ができると思います。

活動を始める時は興味のあることに少しでもトライしてみると新しい窓口が開けます。気の合う仲間と一緒に活動を始めやすいし、身構えずに軽い気持ちで活動できるので長続きします。

古切手もベルマークも全て寄付してくださる方の善意だと思っています。善意がただ溜め込まれるだけでは辛いですが、「私たちが少しでも整理すれば誰かの役に立つ」その気持ちが励みになっています。



(彦根市社協 地域づくりボランティアセンターより)

切手やベルマークに込められた一人ひとりの善意を無駄にせず、次の善意へとつなぐ「チョキチョキボラ」さん。無理をせず、楽しみながら続けるその姿勢は、ボランティアは特別なことではなく、日常の延長にあるものだと教えてくれます。仲間とともに過ごす穏やかな時間が、身近な誰かの支えになっていました。

インタビューにご協力いただいた「チョキチョキボラ」の皆さん、またインタビュアー・写真撮影を担当していただいた「チームなないろ」のメンバーさん、ありがとうございました。

インタビュー協力：『チョキチョキボラ』の皆さん

インタビュアー・写真撮影：『チームなないろ』の皆さん

記事作成：彦根市社協 地域づくりボランティアセンター

(令和8年2月)